

三陸海岸の海中 生映像で教室へ

インターネットで遠隔授業

県・NTT・国連大学

県と国連大学高等研究所、NTT先端技術総合研究所は二十九日、三陸海岸の海中と小学校の教室をインターネットで結び、海中の映像を見ながら学ぶ遠隔共同授業を行う。ダイバーが撮影した海中に生息する生物、海底の状況などの映像を教材にダイバーと一緒に潜る教師が教室内の子どもたちの質問に答えながら授業を進めるもので、日本で初めての試みだ。

29日、県内5小学校が参加

遠隔共同授業は「三陸リ アルタイム環境調査」と名 付られ、県と両研究所が 昨年九月から取り組んでい る「環境ネットワーク共同 プロジェクト」の一環とし て行う。

最新のマルチメディア情 報通信技術を使い、世界有 数の漁場といわれる三陸海 沢市・真城小、同・姉休小、

テレビの生中継と同様の鮮明さだという。

授業時間は約四十分。子どもたちはパソコンの画面を見ながら、電子メールなどを使って安倍教諭に質問し、授業を進める。

安倍教諭が試験的に潜ったところ、ウニ、ホヤ、アワビ、ナマコ、タコ、アメフラシなどが見られたという。「岩手の豊かで、美しい海を知ってもらいたい。海底に捨てられていた空き缶にヤドカリがすみついていてる様子を子どもたちがどう受け止めるかも授業に取り入れたい」と話している。

映像は花巻市の県立総合教育センターが構築する予定のマルチメディア・データベースに蓄え、インターネットを使って県内の学校が再利用。学習カリキュラムの作成などに生かす。

自然の姿 教材に

日本初